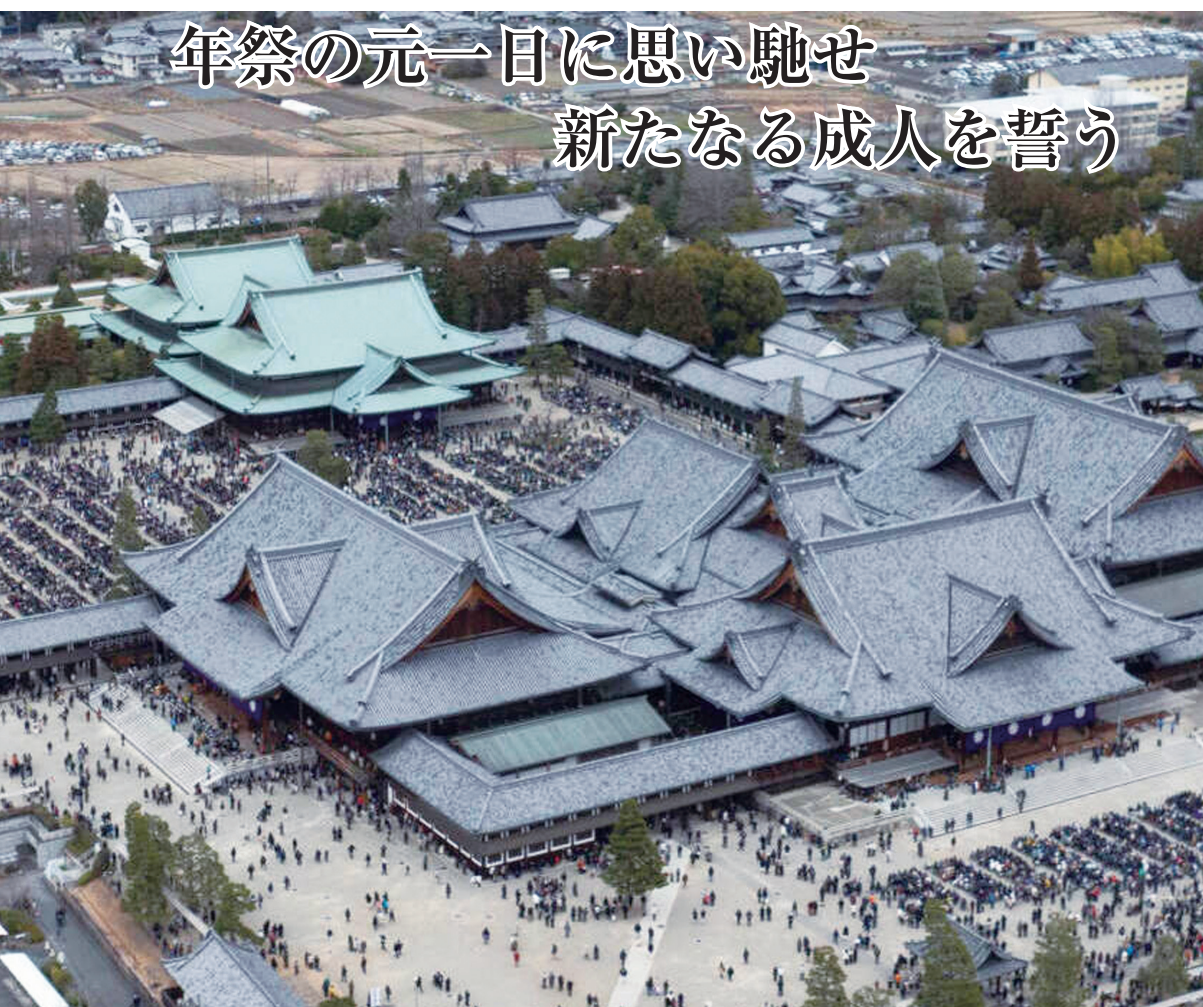


教祖 140 年祭執行

年祭の元一日に思い馳せ
新たなる成人を誓う

ひきよせ



発行所
天理教夕張大教会
〒068-0029 北海道
岩見沢市 9 条西 6 丁目 21
☎ 0126-22-1248
FAX 0126-23-7275
yubaridai146@gmail.com
ホームページ
bariten.main.jp



LINE 友達登録
お願いします

多くの参拝者で埋め尽くされた神苑 (1 月 26 日、天理時報 HP より転載)

お知らせ

月次祭 3 月 15 日 (日) 9 時 30 分開扉献饌

祭典終了後、春季霊大祭

少年会夕張団総会 3 月 22 日

教祖 140 年祭学生おちばがり大会 3 月 28 日

1 月 26 日、教会本部では教祖 140 年祭が厳かに勤められ、約 12 万人 (天理時報より) にも及ぶ多数のようばく、信者が神苑を埋め尽くした。

夕張詰所にも、43 名が帰参 (宿泊申込名簿より)。教祖が現身をお隠しになられたその日に思いを馳せ、それぞれがおちばを拝し、祈りを捧げた。

年祭前日の 1 月 25 日、日本列島は大寒波に見舞われ、道内は札幌圏を含み、至る所で大雪と風によるホワイトアウトが発生。同日夜には、およそ 7000 人が新千歳空港で一夜を明かすほど、交通機関は大混乱となった。

そんな中、夕張関係の帰参者も、その多くがこの日におちばがえりを予定。詰所でその到着を待ち望む方々も大いに心配をしたが、それぞれ大変な苦勞の中にも、不思議と誰一人欠けることなくおちばへ帰ることができ、親神様の親心あふれるお導きを感じる一幕となった。

また親里も、同日は強風とともにときおり雪が舞い、芯から凍える一日となった。しかし、時間がたつにつれて、神殿には国内外を問わず、多くの帰参者がより集い、10 年に一度の旬にふさわしい活気に満ちていた。

そして迎えた、年祭当日。幾分は和らぐも、まだまだ寒さ厳しい気候の中、かぐらづとめ、てをどりが勤められた。

その後、あいさつに立たれた真柱様は、年祭の元一日となる、明治 20 年陰暦正月 26 日、またそこに至るまでの日々についてふれ、おつとめの大切さ、また年祭の意義について改めてお話し下された。そして、今回の年祭活動に際し、届かぬながらも精一杯につとめた我々ようばくに、大きな親心こもる労いの言葉をかけて下され、さらにはこの日を新たなスタートとして、より一層勇んで成人への道を歩んでほしいと締めくくられた。

(岩佐善昭)

つとめ一条でおたすけを

春季大祭の模様



立教189年、教祖140年祭の新春は、例年よりも雪が少なく、落ち着いた年明けとなった。しかし寒さは厳しく、強風もあいまってことさらに寒さを感じる日が続き、大教会神殿の廊下には吹き込んだ雪が溜まるほどであった。迎えた15日、春季大祭の朝は太陽こそ見えなかったが、雪も落ち着き静かな朝となった。しかし道内各所では吹雪くところもあり、困難な道のりからも多くの参拝者が大教会に集まった。

定刻9時半より開扉献饌。祭儀式のち祭文奏上。その後、座りづとめ・十二下りのてをどりが勤められた。おつとめ後には大教会長が教祖の前へと参進し、年祭への道中をつつがなく通らせて頂いた事を御礼申し上げ、これからもたすけ一条に邁進することをお誓い申し上げた。

大祭の講話にあたり、冒頭大教会長は、一昨日よりご身上差し迫り、緊急の治療が行われていた理喜道分教会長様のご平癒を、共に願ったおつとめ奉

仕者、参拝者に心から謝辞を述べ、辛い状況の中で大教会まで来た御家族を丁寧に応じた。続いて3年の任期で辞令を交付。この日付けで、大教会の各部人事が刷新された(4頁参照)。

大教会長は、「昨年より長く相談を重ねまして、教祖140年祭の句に、未来の人材育成という大きな目標を見据えて、本日、人事を新たに、心機一転歩んで行こうと思います。来年は夕張大教会創立130周年の節目を迎えますので、繰り返しになりますが、夕張大教会は新たな体制で人材育成に全力で取り組み、おつとめ奉仕員を増員し、親神様、おやさまにお喜び頂きたいと存じます」と述べた。

また講話では、「昨年末に、直轄



教祖の御前で祭文を奏上

信者さんで大きな手術を今月の14日に迎える方があり、お願いがあった所に、理喜道の会長様のご身上の知らせを受けました。どうしても救かって頂きたいと、

親神様に願うのですが、値を出さねば実を頂戴できない、親神様に受け取って頂ける真実は、日々のひのきしんと、心定めであるので、ここは自分がこれまでやった事がない程の事を定めようと思い立ち、道の先人の話に出てくる「六座のおつとめ」というものを行うと決めました。親神様に礼拝し、座りづとめ、よろづよ八首、十二下りのてをどりを迄一座として、昼三座、夜三座と勤めて願うというもので、今回の場合は、14日午前中の手術と分かっていたので、13日夜から深夜をまたいで六座と思い付きました。

昔の信仰者は、三日三夜に渡ってこのお願いづとめを行われたとも聞き、また病人の布団を囲んで勤められた話も聞きます。私に今できる事は、とにかく限られた時間で、間を空けずに、おつとめ着で六座勤めするという具合で、それでも三座まで勤めたところで、疲れて神殿で寝てしまい、深夜起きて慌てて再開しました。がフラフラして四座目は形にもありません。なるほど親神様にお受け取り頂きたいとは思いますが、生半可なものでは無いと初めて実感しました。他方、段々と余計な事が考えられなくなると、親神様だけが頼りの純粋な気持ちになっていくような、心が綺麗になっていくような感覚も覚えました。

朝になり、除雪や会議を挟んでまたおつとめ着に着替え、ようやく六座を終えました。午後、信者さんの手術の結果を聞くと、患部は全て摘出され、その他は何処にも癌の転移が認められず無事だったそうで、患部そのものも、総合的に診て、大事をとって全摘出したとの事です。全てが綺麗にご守護頂けたら言う事なしですが、きつと親神様は、元々の医師の予想よりも、とても良い結果にご守護下されたのではないかと有難く思いました。大難を小難に変えて連れて通って下さるとのお言葉通りだと。

また理喜道の会長様については、御家族から集中治療室からは出られ、家族と面会ができる、意識が安定し、少し話の受け答えができる状態ですと伺い、私は自分の父が意識が戻らなかった事を思い出し、目を開けて下さる事は本当に素晴らしいことだと感じました。親神様は、親にもたれて通る私たち子供に、きつと一番良い働きを下さいますので、諦めず願ひ続けます」と話した。

更に大教会の前会長夫人、美重子奥様が現在関東で懸命にリハビリに努めている事に触れ、どんどん足腰が強くなられて、元気になっていらっしゃる事を喜び、「実は関東に居ながら、今月、母と実兄、実弟の方々が集結し、母の両親、つまり北遠分教会四代会長・平塚鷹男先生と、トリ奥様の年祭を、美重子奥様を祭主に勤めて下さったんです。元々平塚の家は茨城県の出身ですから、先祖

の墓にも参り、温かな年祭となりました。本当は去年が鷹男先生四十年祭の年でしたが、文雄前会長様の一年祭を優先し、延ばしていたのでした。美重子奥様には3月の祭典講話に立って頂きますので、皆様どうぞ楽しみにして下さいね」とも話した。

そして最後に、「二代真柱様が著書『道具衆』(昭和41年発行)の中で『私はこの一月十三日のお話こそ、常に私達の心の定規とさせて頂く問答と話しているのであります。』と書かれた、明治二十年陰暦正月十三日の、おやさまと初代真柱・眞之亮様との真剣な問答を紹介します。

人々の心の成人を待つ親神様のお急ぎ込みによって、ご身上が危うくなられたおやさまが、眞之亮様に対して、もう待つことはならない、世の法律を恐れず、世界を救うべく、ら・てをどりを勤めよと幾度となくお言葉を下げられ、対して眞之亮様は、大切なおやさまをこれ以上高山(官憲)に連れ去られ、ひどい仕打ちに合わせなくてはならないと、どうしてもおつとめへ奮い立つ事ができない思いで、親神様に、法律も信仰も両方立つ道はございませんかと必死に訴えるお姿が窺えます。

神と人との会話であると同時に、実の祖母と孫との記録上、最後の会話がこの日の問答だそうです。この苦しみを越えて、初代真柱様は、命懸けのおつとめを決断し、その日とうとう警官は一人も来なかった。

おやさまはご安心召され、静かにその御身をお隠しになられました。私が真柱様のお宅の青年に入れて頂いた頃、ある年の大晦日、三代真柱様から住込み青年に対して『正月というのは本来、楽しく明るいものやが、私にとっては、おやさまの御身を案じた当時の人々の気持ちに思ふと、とても目出度いという気にはなられへんのや。人々にとつても、中山の家の者にとつても、正月二十六日という日は、只々おやさまを思い、我が身の成人をお誓いする、そういう日なんや。せ

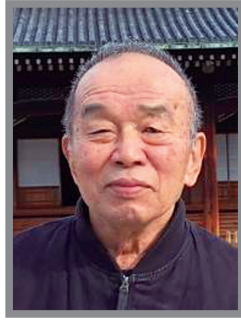
やからな、今度おやさまの年祭を迎える年は、その年の正月だけはこの家の中で「おめでとう」とは、わしは言わんから、「今年もよろしく」というから、皆そう思つてくれ。頼むで」とお話がありました。これは私の心にいつまでも残る大切なお仕込みです」と話した。祭典後には、大教会長を芯に、進級進学のお願いとめが行われ、保護者、また所属教会長などは、学生、児童が、大過なく日々を送れることを願ひ、真剣におつとめを勤めた。

(藤田大和)

訃報

理喜道分教会四代会長
中右 喜久雄様

享年八十歳



夕張大教会理事、理喜道分教会4代会長を務めた、中右喜久雄先生が、1月16日に出直された。享年80歳だった。先生はご両親が開拓しながら布教活動をする日高は静内にて生まれ、小学校で、美瑛町朗根内の教会に入られた。おちば近

くの繊維工場で働く中に、おさづけの理を拝戴し、恵美子奥さんとも知り合った。バイクで宮崎まで走った武勇伝もある程げんきで、北海道に帰ってから、災害救援ひのきしん隊、支部少年会育成、夕張青年会副委員長などを歴任し、平成6年会長に就任。特に車の運転に秀でていて、大教会の排雪のダンブや教区のライラックパックのマイクロバス運転も永らく努められ、たくさんの方のお世話にあたられた。後年、事故の後遺症でお体が不自由だったが、タバコをふかし、コーヒーを手にした明るい姿が忘れられません。告別式は大教会長が祭主で、グツと寒い朝に送られました。

たすけあいの心

修養科一〇二期

祝豊 富本菜摘

私は修養科に来る前から、足の身上のしるしをいただいていた。昨年夏ごろ、足に帯状疱疹が出て、後遺症として神経痛が残っていました。そのため、長時間歩いたり正座をすることが難しく、修養科生活を最後までやり通せるのか不安を感じながら、修養科に入らせていただきました。

修養科中、クラスの方が怪我をされ、車椅子で移動されている場面がありました。その際、自分ができることをと思い、できる限りお手伝いをさせていただきました。以前の私は、自分の身上のことばかりを気にかけ、親神様をお願いすることが多かったように思います。しかし、人のために動くことを意識して過ごす中で、思いがけず足の身上に御守護をいただき、陽気ぐらし世界建設のためには、互いに助け合う心が大切なのだと学ばせていただきました。

また、修養科中におさづけの理を拝戴させていただいたことは、大きな節目となりました。拝戴後に先生から、「おさづけ拝戴は第二の誕生日だよ」と教えていただいた言葉が心に残っています。これからは、人をたすけるための歩み

を新たに始めさせていただくのだという気持ちになりました。

修養科を終えて北海道に帰ってきて、早速リウマチに悩む祖母の右手に、思い切つて初めておさづけを取り次がせていただきました。祖母は少し驚いたようでしたが、「せつかくだからお願ひします」と優しく受け入れてくれました。取り次がせていただいている間、修養科で学んだことや、親神様の御守護を感じながら歩ませていただいた日々が胸に浮かび、私自身があらためて心の温かさに包まれるような思いがしました。この経験は、私にとつておさづけを通して人をたすける第一歩となり、忘れられない経験となりました。心の成人までは、まだ十分ではありませんが、少しでも多くの方におさづけを取り次がせていただけるよう心がけ、修養科で学んだことを日々の生活の中で生かしていきたいと思ひます。

にをいがけ実動について

◇活動報告

日時…12月28日 正午ごろ

場所…夕張大教会

参加人数…3名

内容…神名流し

日時…1月15日 午前8時ごろ

場所…夕張大教会

参加人数…3名

内容…神名流し

◆次回実施予定

日時…2月28日 10時〜15時

集合場所…夕張大教会

庶務部 1月

▽おさづけの理拝戴

松尾 大介 (継続)

1・16
1・27

▽修養科第一〇三期修了

松尾 大介 (継続)

▽教祖140年祭御本部ひのきしん

岩佐 善昭 (志加ノ倉)

▽教祖140年祭託所受入ひのきしん

総務…高橋太志 会計…佐藤大輔

送迎…藤田 豊、渡部辰大

生活…富山知一 庶務…岩佐善昭

炊事…高橋多江子、佐藤千晶、富山文恵

▽託所教養掛・当番

1月 富山知一 (栗山)

2月 前半 藤田好道 (幌部) 【当番】

後半 藤田 豊 (幌部) 【当番】

左記、11月末掲載分

▽初席

玉置 美奈 (旭部)

11・24

大教会日誌抄 1月

1日 元旦祭

2日 能登地震復興お願ひづとめ年頭会議

3日 会長夫妻、おちばへ

4日 真柱様に年頭のぞ挨拶

5日 会長夫妻、お節会ひのきしん (7日)

6日 会長夫妻、帰会

7日 会長、北夕分巡教

8日 会長夫妻、理喜道分巡教

9日 会長夫妻、馬追分巡教

10日 大祭準備 (14日)

11日 春季大祭

12日 進級進学お願ひづとめ

13日 会長、夕喜元分参拝

14日 会長夫妻、栗山分巡教

15日 会長、中右喜久雄様、葬儀 (19日)

16日 会長、兵神大ひのきしんへ

17日 会長、兵神大、春季大祭参拝

18日 会長、本部神殿当番

19日 会長夫人、前会長夫人、おちばへ

20日 教祖140年祭執行

21日 通拝式

22日 会長、かなめ会

23日 教会長御招宴

24日 会長夫妻、御招宴給仕ひのきしん

25日 会長、前会長夫人、関東へ

26日 会長夫人、御招宴給仕ひのきしん

27日 会長夫妻、帰会

28日 会長夫妻、帰会

29日 会長夫妻、帰会

30日 会長夫妻、帰会



ふりかえる—— 教祖 140 年祭

年祭回顧

私は教祖 70 年祭の年、昭和 31 年生まれで、この 140 年祭の年は、古希の 70 歳となる。

80 年祭は夕張でも団参があり、次いで大阪万博があり、各教会でも多くの団体を組んで、別席者もたくさん出来た。団体列車の中で、高齢の方が息が止まり、おたすけで息を吹き返すという不思議を目の当たりにした。その人達の感激の思いはいつも語り草となり、教会としてのこふき話になった。

90 年祭前に夕張は大教会に陞級しており、そのお礼団参があり、桜井詰所などに分散して宿泊した。その折に、私はエレベーターがない桜井詰所で、あるおばあちゃんを背負って 3 階まで上がった。大変喜んでくださり、その方の布教所に行くと、必ず背負っ

てくれたとの話が出て、10 年以上経っても、語り継がれて喜ばせて下さった。第 1 次から 8 次までで、1300 名参拝に来られた。

100 年祭は今の詰所が出来ていて、本部では「元の理」、「ひながた」などのパビリオンがあり、夕張の帰参者も延べ 4600 名に上った。私も誘導のひのきしんをさせてもらった。

年祭毎に夕張は団体列車の第 1 号だったりして、取材されてきたが、この 140 年祭でも、たくさんの方の帰参をお誘いしています。

年祭はたすけの旬——。たすけづとめのおぢばに、1 人でもお連れして、喜べる人生に導きたいと思う。また、新たなこふき話が出来るとでしょう。

(藤崎実)



御招宴出発前 (1 月 28 日、詰所にて)

教会長御招宴

1 月 28 日 12 時から、天理大学杉之内第一体育館にて、教会長御招宴が開かれ、夕張から 13 名が参加した。

この日を初めとして、5 日間にわたって催される今回の御招宴は、教内全教会長を対象に招待され、開宴時には真柱様より、改めて労いのお言葉を頂戴することができる非常に貴重な場である。

続く乾杯の後には、20 品以上のおしながきが並ぶ、真心こもったおいしいお弁当を堪能。この日の会場には、北海道教区の教友が多かったこともあってか、参加者は終始リラックスムードの中、三年千日の労をねぎらい合うなど、時間の許す限り憩いのひと時を過ごした。

(岩佐善昭)

次なる塚に向けて

夕張大教会人事刷新

夕張大教会では、1 月 15 日付で人事を刷新。任期を 3 年と定め、新たなスタートを切る事となった。

【総務部】

梶川卓一 (育成会顧問)
藤田好道 (育成会顧問)

【会計部】

竹田 勲 部長 (総務部)
藤崎利男 会計監査
宮本和昭 会計監査
志水 隆 会計監査

【布教部】

佐藤大輔 部長 (会計監査)
千葉祐生 副部長 (祭儀部)
齊藤真善

【祭儀部】

西尾正行 部長
眞鍋桂司 (会計副部長・総務部)



本部詰員登用

この度、高橋太志役員 (祝梅分教会長、写真) が本部詰員に登用され、2 月より本部神殿当番を務める事になりました。また、1 月 27 日をもって、藤崎実役員は 12 年間の務めを終え、本部詰員を退かれました。



廻廊ひのきしん (1 月 25 日)

梶川文吉 (庶務部)
藤崎 勇 (庶務部)
松下 真 (庶務部)
竹田 元 (庶務部)
渡部修太 (庶務部)
千葉和樹 (庶務部)
大橋宗春 (庶務部)
高橋悟志 (教務部)
中右浩太郎 (教務部)
岩佐善昭 (おぢばがえり推進・雅夕会会長)
【営繕ひのきしん部】
富山知一 部長
渡部辰大 副部長 (祭儀部)
藤田亮平 (祭儀部)
【教務部】
高橋太志 部長 (総務部)
富山睦信 副部長
齊藤智明 法人実務担当
【史料部】
藤崎 実 部長 (総務部)
梶川創一郎 副部長
【庶務部】
藤田 豊 部長 (会計部)
千葉真理 副部長
【詰所主任】
藤崎 実
以上、1 月 15 日辞令交付
※ () 内は兼務